ぜんぎょうじ
善巧寺報

4月号

月刊◉善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660
榎本明覚

▼二〇二四年四月一日▲

東京教区の名品・特産品　～ 草加せんべい ～

定例法座

毎月十一日

❀はなまつり❀

◎四月十一日(木)
午後二時～三時半
於　本堂

「仏法を聞くとは」

仏法の「法」とは、法律(law)という訳語として用いられたように、私という存在を維持するために不可欠な眼に見えない働きの事を言います。例えば、人を殺してはならないという私を存在させるために不可欠な「法」が働いているから、それに基づいた律(罰則規定)が作られ、それに守られて私たちは安心して生活が出来ているわけです。

つまり仏法とは、私たちを生死の不安から解放し安穏に導くという、眼には見えない働き(法)の事を言うわけです。浄土真宗では、日々起こりと起こる欲望、煩悩によって悪趣に堕ちていくより他ない私を、見捨てる事無く《必ず》安穏の浄土に迎えると固く誓われた阿弥陀如来による変わることない法が、眼には見えずとも絶えず私に対して働き続いている事を言うのです。

これを親鸞聖人は「本願召喚の勅命」と言われ、真宗門徒はこれを「親さまのお呼び声」と呼びならわしたのでした。

私の心はさておいて「親さまのお呼び声」すなわち私に対して働く大慈悲に目がいく事を「他力」と言います。目がいった原因は、仏法を聞いたことに依るから私の力ではない「他力」と言うのです。仏法による世界観・視点がこの世に生まれて初めて新たに開かれるのは、正しく仏の大慈悲心に依るものなので、他力の信心とか横超の大菩提心とか大信心と言うのです。

この信は私に恵まれたものであると同時に仏の大悲そのものであるので、穢れに汚れた私が本来行けるはずもない極楽浄土に、如来大悲の船に乗せられて往生するのは全く疑いのない事になるのです。

あなたを決して捨てはしないからどうかまかせておくれ、と常に私を呼び続けて下さるという南無阿弥陀仏を聞かせて頂くと、私を思って下さる仏の真心が、私が浄土に参り安穏の仏と成る事に一切の疑念が無い仏のお慈悲が、決して消えることの

ない信心として定まり、昏き煩悩に沈む私の心を一生涯照らし続け暖め続けて下さるのです。

蓮如上人ご在世の『報恩講』では、参詣者がそれぞれ本願寺の親鸞聖人像(御親影さま)の前で仏の真心をどのように受け取っているかと言う領解を述べ、上人はそれを御簾越しにお聞きになり、誤りを訂正されていたようです。人間(私)は、偏見に陥りがちで常に間違いと隣り合わせのような存在です。自身の領解を忌憚なく述べるという仏事の中の仏事と言える事は、時代がいくら変化しようと形骸化せぬよう努めて参ります。難しい話はさておき、お釈迦さまのお誕生日です。花御堂の誕生仏に甘茶を注いでお祝いしましょう。

みほとけ会月例会

四月六日に対面形式の法座を代官山寺カフェにて行います。現在は、「あなたの心が世界を造り上げている(それ以外に世界は存在しない)」という仏教の基本の「キ」に基づいて様々な事象についてお話ししています。仏教の心についての考察分析は、唯物的概念的な閉塞を突破するのに非常に有効だと考えています。世界をもっとのびのびと捉えてみませんか。五月は二日、十六日に、ZOOMミーティングを行います。参加ご希望の方は、

jetfidget@gmail.com

までCovid-19 規制緩和により、三か月に一回程度、代官山寺カフェにて対面での月例会を開催予定です。決定次第ご報告申し上げます。

◆◆春日部だより◆◆

◎お彼岸のお参りでは大変お世話になりました。寒暖差厳しいなか、快くお迎え頂き有難うございました。桜の開花は当初予想とはかけ離れ、卒業式ではなく入学式での満開となりそうです。「散る桜、残る桜も散る桜」という無常観を体現するソメイヨシノの花弁ですが、桜散れば八重が咲き、八重が散ればつつじが、ネモフィラが、ラベンダーが、という縁起観(全てはつながって生じている)もまた大切。

◎永代経法要は、五月十九日(日)修行いたします。詳細は次号にて。